

## 第7回 名張市観光戦略推進会議（議事録）

日 時：平成30年7月17日(火) 午後4時～午後6時

場 所：名張市役所 2階 庁議室

出席者：金 相俊、辻本 一夫、川口 佳秀、玉置 英治、玉置 治郎、小川 直美、  
加納 明生代理 永井 崇郁、杉本 一徳

欠席者：藤永 和生

事務局：観光交流室 山下 光彦、谷川 勝巳

### 《亀井市長あいさつ》

委員の皆様方にはお忙しい中ご出席を頂きましたこと、まずお礼を申し上げますとともに、日頃から名張の観光振興にご尽力頂いておりますこと重ねてお礼申し上げます。

さて、今年度は赤目四十八滝キャンプ場の改修整備を予定しています。当該施設を拠点として、長期間にわたり活動頂くことも可能となるよう、宿泊棟や炊事棟の整備をします。収容人数を増やして欲しいというこういうご意見や、地域の方々からは整備後の運営についてやっていきたいという声もございますので、そういった期待に応えられるような整備をしていきたいと思っています。

旧国津小学校では、ワイナリーの整備が見事叶いました。名張商工会議所さんが中心となり、運営会社を立ち上げて頂き、先日施設の竣工式がありました。「名張と言えぶどう」といった大きなインパクトを与えて頂けるものになるのではないかと大いに期待をさせて頂いており、今年の秋ぐらいに第1号が出来るのではないかと楽しみにしています。また、先の伊勢志摩サミットでは3銘柄の名張のお酒が使われた訳で、この名張のワインというものが地元の名産に加わり、観光にも生かしていければと思っています。

近隣市村との広域連携観光でございますが、現在、国の地方創生関連交付金を財源に3か年計画で取組を進めており、平成29年3月に東奈良名張ツーリズム・マーケティングを設立しました。今年度が2年目で、来年度にはなんとかこれを日本版DMO法人として立ち上げるべく、現在その準備に取り組んでいるところです。

悩ましい問題として、観光振興に注力する自治体の人口が減っていくという全国的な傾向が見受けられ、三重県内でもそれが顕著になってきています。国立社会保障・人口問題研究所が今年の3月に発表した推計値を見てもそれが明らかになっていて、このあたりもちょっと深掘した勉強をしていこうと思っています。

この度、来年度から4年間の新しい観光戦略を策定頂く訳ですが、観光振興の取組を人口増に繋げられるような、そんな戦略も立てていければと思わせて頂いておりまして、委員の皆様方には、どうかよろしく願いを致したいと思っております。ありがとうございます。

### 1. 名張市観光戦略推進会議について [資料1]

※資料に基づき、事務局より説明

### 2. 日本の観光事情 [資料2]

※資料に基づき、金委員より説明

### 3. 議事

(議長)：皆さんこんにちは、今回名張市観光戦略会議の会長をさせていただきます玉置です。

それでは規定によりまして、私が議長として議事を進めて参ります。本日の議事はお手元の事項書の通り2件ございます。委員の皆様活発な意見と有意義な会議になりますようご協力をお願いしたいと思います。

それでは議事に入りたいと思います。

#### (1) 平成29年度事業報告〔資料3〕

※資料に基づき、事務局より説明

(議長)：只今事務局の方からご説明頂きましたけども委員の皆様、何かこれについてご質問がありませんか。

(委員)：赤目四十八滝忍者の森での忍者体験が非常に好評で、年々利用者が増えています。

そんな中、伊賀流忍者観光推進協議会の取組の内容や情報が現場へ全然届いていません。伊賀市の忍者は見る観光であり、私共は体験する忍者観光です。今後は精神的な修行も含めた忍者への取組も考えていますが、協議会の取組に対しても何か知恵が出せないかとか、何か協力できないかといつも思っています。

次に東奈良名張ツーリズム・マーケティングの現状について、これもあまり分かりません。大きな予算が動く活動という風には聞き及んでいますが、このことについてご説明と、今後の計画があればお聞きしたいと思います。

あと、公衆トイレについてのことですが、赤目四十八滝はトイレを整備していくのが非常に難儀なところです。現状においても非常に危惧していて、整備の資金的面での情報や進め方についてご指導お願いしたいと思います。

(事務局)：まず忍者については、名張市の観光をPRしていくには大きな武器になると私自身も認識しております。今までなかなかその情報が現場の保勝会さんまで届いてなかったという事につきましては大いに反省します。私も6月の異動後、何度もエコツアーデスクの方にもお邪魔させて頂きまして、エコツアーや忍者の森について詳しくお聞かせ頂いています。つきましては今後は連携を密にしながら、場合によっては力をお借りする場面もあるかと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

次に、東奈良名張ツーリズム・マーケティングについてご質問をいただきました。実のところ、平成29年3月の設立以降、マーケティングを中心に取組んでいまして、近隣の大学に在籍する外国人の学生さんにモニターいただき、様々な意見をいただきながら観光商品作りを進めているところです。ご案内の通りこの東奈良名張ツーリズム・マーケティングは、名張市以外にも、奈良県の市村も含め2市4村で組織しておりますので、その活動範囲もかなり広がっておりますので、正直、未だこの名張市の中で形となって見えてきていない状況になっております。事業期間としてはあと残り1年半ぐらいですが、商談会への出展等を通じて売り込んでいきます。結果が見えてくるがもう少し先の方になろうかと思いますが、外国人誘客に取り組んでいきます。その辺りにつきましても、この会議の席でもご報告をさせて頂ければと思います。

最後にトイレの改修など観光客の受け入れ環境の話でございますが、先程の忍者の森の話も含めてですが、今後外国人に関わらず、たくさんの、また様々なニーズを持った観光客の皆様を受け入れていく為には、一定のハード整備も必要と考えておりますので、随時具体的ご意見もお聞かせいただければと思います。

(議長)：他に何かございませんか。

(委員)：これまでの観光戦略の目標3年間の入込客数500万人に対して、達成率が74%という結果ですが、これではまずいと思います。この観光戦略を練り直してしっかりと取り組みを進めていかなければと思います。特に名張の湯は30万人で赤目滝が14万人と、赤目は多い時は30万人ぐらいの入込があったと思うが、これではやはり寂しい話だと思います。

それと、名張市は忍者に関してのPRが足りないと思います。先日、JRの雑誌に今年3月、『伊賀流忍者』創刊300円と出ていました。新幹線乗った人は全部その本が席についているわけで、良いPRになっていると思いました。その中で赤目滝や忍者の森についても載っていましたが、大部分は上野城なり忍者なり、伊賀市のことの方が多かった様に思います。名張は忍者の元祖であり、元祖が遠慮してたらあかんと思います。外国人誘客も意識した中、その活用について根底から考えてもらわないといかんと思っています。

(議長)：はい、ありがとうございます。

(事務局)：まず、これまでの観光戦略の目標値500万人、これを単純に3年間で割り戻しますと、単年度あたり166万人の誘客ということでございます。私自身、正直言いますとかなり高い目標を掲げていたなと思っています。ただ、やはりそこを目指していくにはどういう形で、戦略を立てていく必要があるのか、今後この協議会の中でも色々なお知恵を頂戴できればと思っています。

また、赤目の入込客数は近年14~15万人程度となっておりますが、特に昨年度は台風などの天候の都合、また、それに伴う災害復旧のため長期間入山を禁止にしていた状況もあり減少しました。しかしながら、あわせてご意見頂いた、忍者のPRも含めてですが、やはり名張市の観光をまず牽引していくのはこの赤目滝だと私は思っておりますので、溪谷保勝会の皆さんにもお考えをお聞かせいただきながら忍者と滝をうまく絡めてPRし、赤目滝の入込客数を増やす仕組みを考えていく必要があると思っています。

(議長)：他に何かございませんか。はい、どうぞ。

(委員)：私が昨年4月にこの産業部に来させて頂き、前任者から引き継ぎを受けた際には、インバウンドの爆買に対応が必要ということでしたが、今ではその爆買は昔の話になり、個人旅行への対応というような話でして、このインバウンドの観光ニーズの変化にきっちりと対応していくような観光戦略を作っていく必要があると思います。

(議長) : はい、ありがとうございました。

(委員) : 最近 YouTube で、名張への移住者向けの動画が公開されてますが、これは観光交流室と全く関係ないのですか。短い時間で紹介っていうのはなかなか難しいと思うので、今後中身を充実していくのかどうか、またその過程で観光交流室が関わり、アイデアを入れていくことはできるのですか。

(事務局) : 確か10日程前に YouTube で名張市を広くシティープロモーションのため、観光や物産のみならず子育て支援の取組等まち全般をPRしていく動画配信を開始しました。これは移住・定住の促進を所管する地域活力創生室が担当をしています。やはり名張市をPRしていくうえでは色々な取組を幅広く発信していくことが大事で、移住フェアの中でも観光を、また、我々が観光をPRしていくなかでも移住促進につなげていけるような、そういう連携をしてやっていきますので、動画配信の第2弾、第3弾と進めていく中では、観光の方からも十分に意見を言わせていただき、全庁的に進めていきたいと思っています。

(議長) : 他に何かご質問ありませんでしょうか？はい。

(委員) : 観光振興の体制というか、市の観光交流室、それからDMOと観光協会等、この辺は今どういう形で関わっているのですか。特に観光協会は、今どういう働きをしているのか、市の観光戦略との兼ね合いは実際にあるのですか。

(事務局) : 行政では全面的に観光振興を図っていくのが弱いところがありますので、そのあたりを観光協会さんのほうで主にPRやイベント開催をして頂いています。日々、事務所を行き来する中で連携をして進めておりますし、当然、観光戦略を作る段に置きますとも会長さんはもちろんのこと、事務レベルでも意見交換をしながら進めていきたいと考えております。

(議長) : はい、他にございせんか。

(委員) : 観光は広域であるほど、商品が豊富であり、お客さんも選びやすい。自分たちで何らかの商品を造成していくとなると、むしろ長い年月がある観光協会や東大和西三重とかのほうが現実的ではないかと。市長あいさつの中で、東奈良名張ツーリズムでDMOの立ち上げを視野に入れてとありましたが、この団体の目的、方向性はどのように進んでいくのですか。

(委員) : 組織的に東大和西三重の構成団体と、東奈良名張ツーリズム・マーケティングの構成団体、イーコールっていうのを最初は目指していましたが、構成団体の皆さん方それぞれの思惑があり、実際には違う構成メンバーになっています。今後は、改めてDMOの体制やあり方、今後の方向づけをしていく段階に来ていると思います。

(議長)：東大和と西三重の地域は、以前から協力してやっているので非常に連携しやすいこと。ただやはり出発点が行政同士であると民間レベルにまでなかなか広がらない。ほとんど民間レベルでは連携ができていないというのが現状です。本当は行政が御膳立てして民間同士が連携できるようになればいいのですが。

(委員)：広域でやる時の一番大きな課題は、名張市の場合は観光協会が一本ですが、宇陀市は一本化できていない。壁がどうしてもあると感じます。

(議長)：いろいろ議論はありますが、はい、どうぞ。

(委員)：東奈良名張ツーリズム・マーケティングに関して、具体的にはどのような活動を行っているのか、また、東大和西三重のメンバーの中で、津市と伊賀市が抜けていますが、この辺はどういう経緯があったのかお教え頂けたらと思います。

(委員)：東奈良名張ツーリズム・マーケティングの立ち上げの時は、東大和西三重観光連盟の構成自治体すべてに声掛けはさせて頂きました。

(委員)：大前提の話として、DMO がインバウンド誘客を中心とする中で、伊賀市については独自でやっていきたいということだったと思います。津市が参画しなかった理由は分かりません。

(委員)：東奈良名張ツーリズム・マーケティングの、具体的な活動を教えて頂きたい。

(事務局)：はい。平成29年の3月に設立し、主な取組と致しましては、2市4村のエリアを、職員がそれぞれの現地を調査し、その後実際に外国人の方に現地を歩いて見て回り、意見をいただくモニターツアーを行いました。具体的には、平成29年3月には宇陀市と名張市、10月には山添村と名張市、曾爾村と御杖村の各所をまわるモニターツアーを実施しました。また、組紐体験やお寿司づくり体験を行い、外国人誘客の観光資源になり得るかというところを調査しました。

さらには、インバウンドの受け入れ講座について、おもてなし講座というものを平成29年の11月から12月にかけて4回開催しておりまして、その4回目が名張市の防災センターで開催し、58人の方に参加を頂いております。あとは、インバウンド観光の講演会も4回行いました。こういった活動と並行して、可能性のあるものを商品化して、東京で開催されましたビジットジャパンという国内外のエージェントの集まる商談会に売り込みに行きました。併せて専用のホームページや、フェイスブックなどでの情報発信も行っております。

(議長)：他にございませんか。はい、どうぞ。

(委員)：名張を1日かけ周るような観光は難しいと感じています。周辺のエリアと協力していくしかないと思います。だから、名張を少し観光して拠点にしながら、周辺のエリ

アへ観光に行くとか、またその逆のパターンとかですね。

(事務局) : おっしゃる通りです。ただ、私個人としては名張でも、例えば土曜日の昼頃着いてぶどう狩りを楽しんで、その夜近くの宿へ泊って、次の日また赤目滝を歩いたりとおそらく1日や2日、十分に過ごして頂ける観光資源はあるかと思っております。しかしながら、委員がおっしゃるように、広域観光がこれからの課題になってくるのは確かで、東大和西三重のみならず、京都や伊勢などとの広域的な観光っていうのも非常に大事になろうかと思えます。特にこれからインバウンドに力を入れていきますと、名張を拠点にしながらいろいろな所へ行っているという現状を広域的な目で見ながら、名張でいる時にどれだけ名張にお金を落とすか、そういった仕掛けも考えていく必要があると思えます。

(議長) : はい、他に何かありませんか。ないようでしたら、これで第1号議案については以上で終了させていただきます。

## (2) 新・名張市観光戦略の策定について [資料4・5]

※資料に基づき、事務局より説明

(議長) : 只今、事務局の方からご説明頂きましたけれども、これについて皆様ご意見ありましたらお願いします。

(委員) : 資料4の7月23日～29日、私も情報としては聞いていますが、何を聞き出したのかという事に非常に興味があります。それと聞取りのタイミング、入る時に聞くのか帰りに聞くのかによっても違うと思えますし。この観光戦略に生かそうという趣旨であれば、どう生かすのか、何を聞きたいのかを教えてください。

(事務局) : 今回、名張高校さんにご協力頂きまして、この7月23日～29日の間、調査を実施します。調査項目としましては「なぜ、名張に来たのか」という動機付け、それと赤目滝の情報をどこから得たのかなどの情報を聞き取りたいと思えます。今後観光戦略の中で、名張の強みなどとともに、どこに重点を置いて取り組んでいけばいいのかを、アンケートから探っていきたいと考えます。実際調査のタイミングですが、入山し終わった後に、入り口付近で聞こうと、事務局の方で考えております。これは保勝会のスタッフの方々と調整していきたいと思えます。

(議長) : アンケートに協力いただいた方には、粗品なども渡すのもいいのかなと思えます。

(委員) : 聞いて欲しいことは、例えば赤目四十八滝から帰ってきた時に、「これからどうしますか」とか、あるいは「事前にどんな情報があったらいいのか」など、そんな広域の連携に繋がる様な聞取りもあればいいかと思えます。

(事務局)：その通りでございます。今回の聞き取りの中にも、名張に宿泊するのか日帰りなのかなどの項目も含めております。

(議長)：ほかに何か、ございますか。はい、どうぞ。

(委員)：聞かせていただきたいのが、延べ宿泊者数は、事業者で把握しているのですか。

(委員)：持っているのですが、控えまではありません。

(委員)：うちは必ずパスポートをコピーします。

(委員)：県さんとしては各市別の数字は出せないですね。

(事務局)：県の情報ではなくて、国の統計調査があります。各市町ごとの数字を公開していないので県として入手できないという状況になっています。

(委員)：その元になっているものを、宿泊施設の方から県に数字を頂きましたら作らせて頂きたいと思っています。これは宿泊施設の方のご了解が必要ですが。

(議長)：名張のビジネスホテル、シティーホテルとかも入ってくるんですね。

(委員)：多分うちなんかは、毎月そのアンケート出しています。

(事務局)：その官公庁のデータが本当に日本全国の大きな施設から小さい所まで全ての数を把握しているかどうかというのは掴んでいません。

(委員)：今ここで名張の事業者で協力して頂けるところの積み上げと、三重県から降りてくる数字とが一致したらいい訳ですが、一致しなかったらどっちかに不備がある訳ですよ。

(事務局)：一致といいますか、県はその名張の宿泊数を持っていないはずですよ。

(委員)：この取組目標では、現実的に無理であれば“延べ宿泊者数”ってのは素案として、入れない方がいいのではないのでしょうか。

(委員)：赤目滝では入山券を切っている。うちでも入園券切っています。その件数でも大中小、人数としては信頼出来ると思うのですが。

(委員)：極端に言いますと、なぜこの宿泊数を非公開にするのかが意味が分かりません。

(委員)：多分宿泊施設やったら控えを取っているのです。

(委員)：なんかこういうのをやるのに人数抜けているっておかしいよね。

(委員)：また消費額という形の項目も一つではないでしょうか。

(委員)：ただそれでしたら宿泊もありますけども、食事だけでもあります。また、お風呂だけでもありますよね。

(委員)：会議の趣旨に戻ると、まず素案をどうするか。この宿泊者数、日本全国同じです。北海道に行っても沖縄に行っても同じことしか言わないので、例えば観光消費額とかって言うのが例えば県レベルでも取れたら、参考まで消費額を増やす目標というのを入れるとか、あるいはこの項目を抜くとか、そういうことをこの会議で決めないともう進まないで、それは物理的に無理であればこの項目は抜くほうがいい。

(議長)：自己申告になってしまいますので、把握しにくいと思います。

(事務局)：実際、10年ほど前に観光担当をした者に聞きますと、以前はお願いをして宿泊者数を聞いていました。ただ、近年は、宿泊者数をお願いにもあがっていないので、1軒1軒お願いにあがればいいのかとも思いますが、全ての宿泊者の事業者さんをご協力頂けるかどうかは、何とも言えません。例えば10あるうち、5つだけご協力頂いてその数字を掲げるって言うのもどうかという部分があります。本来でしたら、国レベルでなにか情報を持っていて、県レベル、市レベルぐらいまでそのデータがあればよいのですが。

(委員)：現実無理だから抜きましょう。

(委員)：この数字目標というのは、現状値があって、中間目標値があって、最終目標値がありますが、これについて委員の皆様方どうですか。この辺の意見を出して、一旦目標だからというものではなくて、赤目では、会長いけますか。

(議長)：目標は目標であってその為にはどういった商品造成して、戦略を立てるかというのが一番大事だと思います。外国人をいかに誘致するかもひとつかだと思います。

(委員)：ホームページにアクセスする数値はこれでいいと思います。超えても構いませんからね。

(議長)：外国人の目標は、赤目だけ取ってもちょっと消極的ですね。1万人ぐらいは目指すべきだと思います。この延べ人数の数字から言いますとね。

(委員)：1万人という話が出ておりますが事務局どうですか。



(議長) いや、可能だと思いますよ。

(事務局) : 単純にその下3つは前年比5%増で積み上げて機械的に出していますので、そういったご意見も含め、ご議論頂いた内容を踏まえて決めていきたいと思います。

(委員) : この4年間で、現状の114万から150万となると約35万という数字目標ですけど、これに対して現場にいらっしゃる皆様方の意見も含めてやってみるべき数値ではないですか。

(委員) : 逆に毎年15万ずつ増というのはそう簡単な数字ではない。

(委員) : 2020年オリンピックまでが一つの目標で、そこにピークではなくて、もうちょっと後でピークというのもありかとは思いますが、もっとそこで大きな数字が出るのではないかと思います。

(委員) : 前は3年で500万人でした。それよりはちょっと下げてありますよね。それでいいのか悪いのかという議論ですか。

(委員) : 私の意見としては、目標としても掲げてやるべき数字違うかなと思います。

(議長) : 外国人を増やすしなかなか手立てがないと思います。日本ではどこも観光課客が減少していますので、これからは外国人客頼みだと思います。

(委員) : 10万ちょっとずつでしたら、毎月1万人くらいが増えるという感じですし、波に乗ればそう難しい数字ではないですけど、どうでしょうか。

(議長) : 滝がありますというものではなくて、外国人に対して何をどうアピールするかによって大きくそのインバウンドの数字が変わってくる。

(委員) : この数字ですが、策定の日程を見ながら9月まで考える時間もあるので、次のこの6ページの枠組みと展開をいかに充実化させるかによって、先程の数字というものも自然についてくるものです。そこで考えると中国、台湾、韓国これがやっぱり70%を超える日本のインバウンド市場であるという事を踏まえ、やはりここに実践的に受け入れが可能なエージェントとタックを組んで、例えば、現地に要するパンフレット製作代ぐらい、例えばそれが20万なのか30万なのか、実際他県、他市でもそういう事やっているところもあるので、そういう風な誘客可能な施策として取り組まなければいけないと思います。あるいはDMOの予算で台湾、韓国、中国の実際の企画担当者などの、商品を作ってくれるキーマンを招待したらどうかと私個人的には思うんですが、そういう予算を使って、来てもらって、そのあと商品を即作ってもらうようなことをしないと。実際DMOの強化戦略という(3)番と連動して、事実上、連動可能なこの取組をDMOと連携して、こうやってみるのを詳細計画にこう練っていけば

いいと思います。また、この人に当たったほうがいいというところまでアドバイスしますから、少なくとも中国、韓国、台湾においては、ある程度ネットワークはあるので、そのようにもっていけば、少なくとも今よりは進展すると思います。外国人誘客ということでは、この期間中に韓国の旅行会社、台湾の旅行会社、あるいは中国の旅行会社と、具体的にタッグを組んでやることで数字は見えてくるのかと思います。

(議長) : 確かに先生がおっしゃることは的を射ております。この地域に来られる人は京都や奈良、あるいは大阪などに行くついでにここへ寄るというぐらいのミニ旅行で来られます。そういった形で名張に来てもらうことを想定した戦略を作るほうがいいと思います。やみくもに外国人の旅行者来てくださいと言っても絶対来ません。モニタリングなどをするにしても、誰でもではなく、ある程度有力のある方にワンポイントでお願いする必要があります。

(委員) : 県では昇竜道の関係で台湾かのエージェントの方、東奈良名張ツーリズム・マーケティングでは、タイのエージェントとの接触もあると聞いています。金先生の言う、絵にかいた餅ではなくて、やはりそういう風にアタックしていかなければ、なかなか実績が上がらないと思います。

(委員) : その通りだと思います。県もいろんな情報を持っておられます。それで、9月に、県で海外への経済ミッションがあると聞いているのですが。

(事務局) : そうですね、台湾への経済ミッションですね。

(委員) : 噂では名張の人も誰かが行くと聞いています。昔、日台交流協会の交流イベントがありましたよね。

(委員) : 私も、参加させていただきました。様々なジャンルの社長さんも来られていました。特に三重県と台湾では、いろんな関係の交流をしているので、こうしたものを活用していくべきだと思います。

それともう一つですが、基本方針の1番目、2番目、3番目について、おもてなしで、町全体を好きになってもらうという表現に変えてもらう方がいいかなと思います。

(委員) : 今日、決めなければいけないのは、6ページにある戦略の枠組みと展開ですが、おおむね、これでいいと思います。

(議長) 今の先生のお話で、事務局としてはどうですか。

(事務局) : 金先生がおっしゃるように事務局のほうから、一旦この4本の柱を提案させていただきました。ただ、委員の皆様方で、もう少し改めるべき点などの御意見がありましたら、今後素案のほうに反映していきますし、特に問題がないようであれば、このまま詳細を煮詰めていこうと思っておりますので、皆様にご協議を頂きたいと思います。

(議長) : 今の素案として、枠組みはこの4つでよろしいでしょうか。

(委員) : 大きくは何も問題ないと思います。ただし、まだまだ受け入れ側の体制が、不十分なところがあります。実はこの前イスラム教の研修に行きました。内容が難しいと思ったら案外そうではなかったです。こういったイスラム教の客の受け入れ体制について、政策の一つとして入れていければいいと思います。

(事務局) : 今のお話では、やはりこの4つの戦略の中での、市場創造戦略やDMO強化戦略、この辺りを、外国人や日本人関係なく、多様なニーズを持つ人をどのように受け入れていくか。その受入れ体制の構築は必ず重要になってくると思いますので、詳細を入れていきたいと考えております。ありがとうございます。

(議長) : 何か他にご意見ございませんか。

(委員) : 日本は災害国ですので、雨が降ったら赤目の入場者数が減るであるとか、桜の時期がかなりずれて桜まつりの時期に影響がでたりします。雨天などの場合でも、滝を訪れてよかったなど思ってもらえる何かを考えて頂くことはどうでしょうか。

また、桜だけではなくて名張は、百合が丘とか、梅が丘などいろんな花の名前がついている地域が多いので、この季節のここに行けばこの花を見ることができるとか、1年を通じて花を見ることが出来る施設もあってもいいかと思います。さらには寺院の方にご協力いただいて、寺院の敷地にある花の開花状況などをSNSで情報発信してもらえれば、よりおもしろいなと思います。

(委員) : 外国人の方の時間の使い方が、日本人とは全く違いますね。

(委員) : 日本人は温泉旅行に行ったら3時から温泉に浸かりに行き、夜ご飯を食べますけど、韓国人は、フルに観光して、ご飯を先食べてから温泉です。また、台湾人これとは違って、中国の方は温泉そのものが好きではない。国によって考え方が違うので、それぞれに対応していくために現場の方を集めた形でセミナーをしていただきたい。

(委員) : 韓国人は、夜の8時や9時ごろから宴会が始まったりします。

(委員) : そうですね。韓国人には食事を一気に出して食べてもらうなどの対応をしています。

(委員) : 全部がそうではないですが、イスラムの外国人客だった場合はハラールについてもやはり気にされますね。食事に豚肉が入っているかないかなど。

(委員) : 例えば、日本人はもとより韓国人、中国人、英語圏の人、アラブ圏の人の対応マニュアルを作っておけば、それだけで外国人客は納得します。

また、外国人客に対しての接客セミナーなどを開催するなど、現実に即したものを

行っていないと、DMOの設置、その設立そのものがちょっと薄れてくるかと思えます。せっかく予算も取っている訳ですから。

(議長) : DMOも出張や外国誘致ばかりではなく、もっとこういった貴重な意見を使って予算を使うべきですね。

(委員) : 昨年もさせて頂いたところですが、セミナーが終わった後に、もっと真剣に聞いてあげよかったと言う方も結構いらっしゃいますので、これは繰り返ししていくことと、それから個々のニーズについてもきめ細かく対応していくという様なことも含めて、取り組ませて頂きたいと思えます。

(議長) : そうですね、また整理して素案の方に盛り込んでください。

(議長) : はい、その他ご意見ございませんか。

(委員) : 去年の観光戦略推進会議での話ですが、赤目四十八滝と青蓮寺ダムを繋げるルートにある看板が複数箇所劣化している件について、この話はその後どうなっていますか。

(事務局) : 市の所管の看板かもしれませんので、後で確認させてください。

(議長) : それでは最後になりますが、他に意見ございますか。

(委員) : 今、国土交通省木津川上流河川事務所の引堤工事の件で黒田区にかかってきている訳ですが、やはりこうした取組を捉えて、新たな観光資源として、名張の西の玄関口にしていきたいという思いがあります。

今後どうなっていくか分かりませんが、川の駅、道の駅という形のことも視野に入れていけば、人の集客も図られると思えます。

また、そこに駐車場が出来れば、旧町へもそこから歩いていけると思えますので、観光交流室としても今後、その点をご検討して頂きますよう、お願いします。

(議長) : ありがとうございます。その点につきましては観光交流室には、可能ならば新しい観光資源として検討いただきたいと思えます。

それでは、以上予定していた議事は全て終了しました。委員の皆さんには熱心な議論ありがとうございました。

(事務局) : 次回9月の中旬を目途にお盆前後には日程調整をさせて頂きたいと思えますので、よろしくお願い致します。事務局からは以上でございます。

それでは、委員の皆さんからは何もないようでしたら、本日の会議を全て終了させて頂きたいと思えます。長時間に渡りどうもありがとうございました。

以 上